

食品市場新聞

発行所
 (有)食品市場新聞社
 〒652-0844
 神戸市兵庫区中之島1丁目1-4
 電話(078)681-1046番
 FAX(078)681-3824番
<http://www.sssnews.co.jp>
 購読料 (1ヵ月)4000円

果合
 青組
 敷受
 倉荷

近郷産地からの集荷強化

自社農場で
 栽培開始
 新低温貯蔵施設も稼働

岡山県の民営青果市場、倉敷青果荷受組合(富本尚作理事長)は、岡山県産の業務加工用野菜の取扱を強化する。今月からは、新たな低温集出荷貯蔵施設を稼働するほか、自社グループの農場で野菜の栽培も始める。実需者からの要望に応えカット加工などに使用する地元産野菜の比率を高めると同時に、地域農業の振興に貢献する。

今月末から稼働する新しい低温集出荷貯蔵施設は、同市場内に総工費3億5000万円(整備した。鉄骨2階建ての断熱パネル式構造で、延床面積は1720平方メートル。冷蔵庫や選別調整室などがあり、原料野菜の貯蔵や小分け包装、給食・外食向けの簡易な野菜のカットを手掛ける。

これまで市場内に貯蔵施設があったものの、カット野菜の生産拡大に伴いスペースが不足し



今月末から稼働する新低温貯蔵施設

野菜の生産を拡大しようとしていたため、16年度の農水省「強い農業づくり交付金」から補助を受け建設に踏み切った。岡山県内で加工業務用6団体(生産者12人)が現在加盟しており、18年度に約1000トの加工・業務用キャベツを新規に栽培する目標を掲げている。

さらに自社でも昨年10月、農産物の生産を行うクラカアグリ(株)を設立。総社市にある1畝のほ場で今月から栽培を開始する。キャベツ(11~3月出荷)、青ネギ(周年出荷)、レタス(12~4月出荷)の3品目からスタートし、19年度には14畝まで面積を拡大して500トを出荷する計画だ。生産した農産物は、倉

敷青果荷受組合のカット野菜部に全量契約出荷。農作業を機械化して大規模化を図り、耕作放棄地の解消にもつなげる。「クラカアグリがモデル農場の役割を果たし、岡山県内で加工業務用の産地化を進めたい」(富本理事長)。

近郷産地からの集荷を強化する背景には、ドライバー不足による輸送運賃の上昇、食の安全・安心に対する関心の高まりがある。富本理事長は「ハード、ソフト両面で体制を整備し、絶えず変化する需要に対応したい」と話している。

倉敷青果荷受組合は、98年にカット野菜事業に参入。15年度のカット野菜部売上高は前年比16%増の38億円と毎年増収している。